

# 令和5年度 基本施策評価シート

作成日 令和5年7月12日

基本施策	A3	国際性を豊かにします	
2025年度に めざす姿	対 象		意 象
	市民が		文化の違いを理解し、世界の人と活発に交流している。
第五次総合計画[前期基本計画]基本施策掲載ページ			59ページ
基本施策主管課名	国際課	関係課名	学校教育課

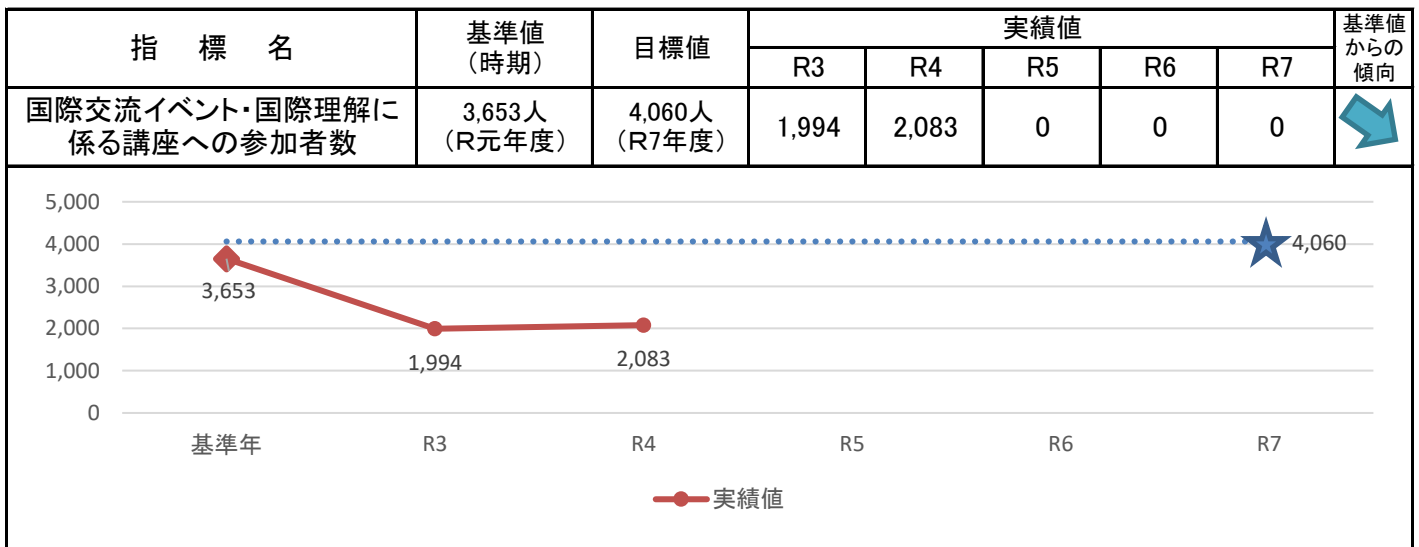
## 基本施策の総合評価

総括	<p>●基本施策の成果指標である「国際交流イベント・国際理解に係る講座への参加者数」は、2,083人(令和4年度実績)で、2025年度(令和7年度)に目指す姿である4,060人を下回っているものの、令和3年度以降、増加傾向にある。</p> <p>●国際交流イベントや国際理解に係る講座への参加者数が増加傾向にあり、市民が文化の違いを理解する機会を提供できているが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、世界の人と活発に交流しているとは言い難い。</p> <p>以上を踏まえ、今後の主な取組みは次のとおりとする。</p>
A3-1	<p>●国際交流イベントについては、国籍が多様化している留学生への働きかけを行い、新たな国の参加を促すなど、内容の充実に向けた取組みを進める。国際理解に係る講座のうち、出前講座については、継続して学校への周知を行うとともに、新たなニーズを発掘するための地域への呼び掛けを行うことにより、国際交流の機会の拡大に取り組む。また、国際理解講座については、オンラインでも参加ができる環境を整えるなど、参加者の利便性の向上につながるような取組みを検討する。</p> <p>●児童生徒の英語力向上については、市内の小中学校に配置したALTの効果的な活用を探るとともに、例年実施している小中9年間の英語教育研修会や学力向上研修会を充実させる。また、教科部会と連携しながら教員の指導力向上に努める。</p>
A3-2	<p>●外国人住民の生活利便性を高めるため、「やさしい日本語」の活用を進めるとともに、多言語での相談に対応した「長崎県外国人相談窓口」の周知を行う。</p> <p>●初級日本語講座の国際ボランティアの登録者数増加を図るため、新たに大学への周知を強化するなど、より幅広く募集を行うとともに、年度途中でボランティアとの意見交換を実施し、その意見を講座の運営に反映させるなど、モチベーションを上げる取組みを行う。また、「やさしい日本語」については、職員及び市民を対象とした研修を実施する。</p>
A3-3	<p>●長崎留学生支援センターを中心として、産学官の加盟団体、関係団体、企業と情報共有し、一体的に、外国人留学生の募集、就職、情報発信等の留学生の状況に応じた各種支援の取組みを進める。</p>

## 二次評価(施策評価会議による評価)

●	A3-1「①国際交流の機会と内容の充実」について、英会話に関する効果的なツールも開発されているため、「今後の取組方針」に、オンラインを活用した国際交流イベント等に関する記載を検討すること。
●	A3-1「②姉妹都市等の情報提供と市民交流の支援等」や「③国際的に活躍できる人材の育成」について、令和4年度にライデン市とこども国際会議を通じた交流を実施したり、令和5年度もサントス市への公式訪問団の派遣やシーボルト来日200周年記念事業を実施することとなっているため、それらの取組みについての記載を検討すること。
●	A3-3「①産学官が一体となった各種支援策への一元的な取組み」の「問題点とその要因」において、「留学生の状況に応じた必要な取組みが多様化していることにより、対応することが難しい。」と記載されているが、「今後の取組方針」には、長崎留学生支援センターを中心とした取組みしか記載されていないように見受けられる。他のシートも同様に、改善型評価の趣旨を踏まえ、「問題点とその要因」の因果関係を明らかにしたうえで、「今後の取組方針」を具体的に記載すること。
●	A3-3「②外国人留学生との協働」について、「めざす姿」と「現状」のギャップをしっかりと分析したうえで、「問題点とその要因」を記載すること。
●	個別施策評価シートの「成果」については、全般的に、可能な限り具体的な数値(●回開催、●人参加など)を入れたり、前年度の数値と比較するなどして、よりわかりやすい表現に努めること。

## 成果指標



## 年度別 主な取組内容

R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際交流を実施した小・中学校数の増(23校の増)</li> <li>・日本語ボランティアによる外国人住民のための初級日本語講座の受講者数の増(791人の増)</li> <li>・外国人留学生数の増(461人の増)</li> <li>・外国人留学生の公共施設入場料免除利用者数の増(2,132人の増)</li> </ul>			

令和5年度 個別施策評価シート

個別施策	A3-1	国際交流・国際理解の機会の充実を図ります	
2025年度に めざす姿	対 象	意 象 図	
	市民が	国際交流を体験し、国際的な理解を高めている。	
個別施策主管課名	国際課		

成果

① 国際交流の機会と内容の充実

●市民が国際交流を体験し、国際的な理解を高めるため、国際交流イベント「ながさき異文化ちゃんぽんフェスタ」や、国際理解に係る講座を計77回実施したことにより、一部で新型コロナウイルス感染症の影響は見られたものの、令和3年度(1,994人)を上回る2,083人が参加し、多くの市民が国際交流を体験する機会を得ることができ、外国に対する関心・理解を深めることができた。

② 姉妹都市等の情報提供と市民交流の支援等

●姉妹都市等との交流を図るため、ブラジル・サントス市との姉妹都市提携50周年を記念するオンライン交流会を開催したことにより、互いに顔を合わせ、まちの状況を報告しあうといった交流が図られ、両市の結びつきを強めることができた。

③ 国際的に活躍できる人材の育成

●幼少期から国際的な理解と多文化共生の認識を高めるため、子どもゆめ体験事業を実施し、中学生16人を姉妹都市オランダ・ライデン市と市民友好都市ドイツ・ビュルツブルグ市に派遣する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。しかし、事業実施から3年後のアンケート調査を継続して実施したことにより、回答があったすべての参加者から、事業が進路選択に影響を与えたという回答を得るなど、参加者の現状を確認することができ、国際感覚を持つ人材の育成状況の把握につながった。

【G1-1に再掲】

●国際理解教育の充実のため、「あじさいEnglish Day」や「あじさいEnglish Speech Contest」などのイベントやコンテスト、国際交流体験を実施したり、市内の小中学校にALT(36名)を配置したりすることにより、英語を用いたコミュニケーションの機会が増え、児童生徒の英語力向上に寄与した。(英検3級以上及びそれ相当の英語力を有している中3の割合が令和3年度の50.5%から53%まで上昇した。)

問題点とその要因

① 国際交流の機会と内容の充実

●国際交流イベントや国際理解に係る講座の参加者は増加に転じているものの、国際交流イベントについては、新規の参加団体の発掘が進んでいないことにより、ブース出展やステージ出演の内容の固定化が見られる。また、国際理解に係る講座については、特に出前講座の受講者数の増加を図るため、校長会等での呼び掛けを行っているものの、学校で講座のための時間確保が難しいことなどにより、出前講座の受講者数は減少傾向にある。

② 姉妹都市等の情報提供と市民交流の支援等

●姉妹都市等との交流の内容をホームページやフェイスブックなどを通じて発信しているものの、事業の性質上、参加者が限定されることから、事業に関わった人以外に成果や効果を実感してもらったり、指標として表現することが難しいことにより、市民との情報共有が十分にできていない。

③ 国際的に活躍できる人材の育成

●子どもゆめ体験事業の参加者に対し、事業実施から1年後と3年後に現状を把握するためのアンケートを実施しているが、進級や進学に伴って勉強や学校行事などで忙しくなり、ホームステイのホストファミリーとの交流が途絶えるなど、継続的に国際交流や国際理解に関心を持つことができていない場合がある。

【G1-1に再掲】

●中学生の英語力については、英検3級及びそれ相当の英語力を有している生徒が増えているものの、県が設定している目標(英検3級及びそれ相当の英語力を有している生徒の割合60%)には届いていない。また、県学力調査の市の結果は、県の平均を0.4ポイント上回っているものの、その差が縮まっている。

## 今後の取組方針

### ① 国際交流の機会と内容の充実

継続 ●国際交流イベントについては、国籍が多様化している留学生への働きかけを行い、新たな国の参加を促すなど、内容の充実に向けた取組みを進める。国際理解に係る講座のうち、出前講座については、継続して学校への周知を行うとともに、新たなニーズを発掘するための地域への呼び掛けを行うことにより、国際交流の機会の拡大に取り組む。また、国際理解講座については、オンラインでも参加ができる環境を整えるなど、参加者の利便性の向上につながるような取組みを検討する。

### ② 姉妹都市等の情報提供と市民交流の支援等

継続 ●姉妹都市等との友好・親善を目的とした交流事業を引き続き実施する。令和5年度は、昨年度に姉妹都市提携から50周年を迎えたブラジル・サントス市への公式訪問団の派遣を予定しており、さらに、子どもゆめ体験事業については、シーボルト来日200周年を記念して、姉妹都市のオランダ・ライデン市、市民友好都市のドイツ・ヴュルツブルク市へ中学生を派遣することから、SNSなどの様々な媒体を活用した効果的な発信を行い、時機を捉えた市民との情報共有を進める。また、市民レベルでの主体的な国際交流について支援等を行うことで姉妹都市等との裾野の広い関係強化や交流促進につなげる。

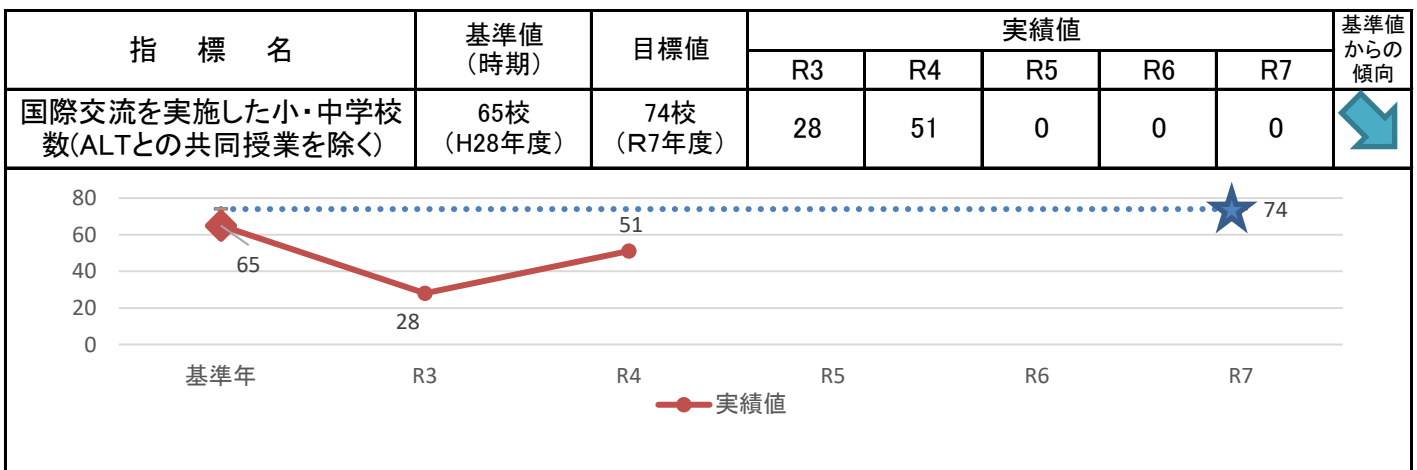
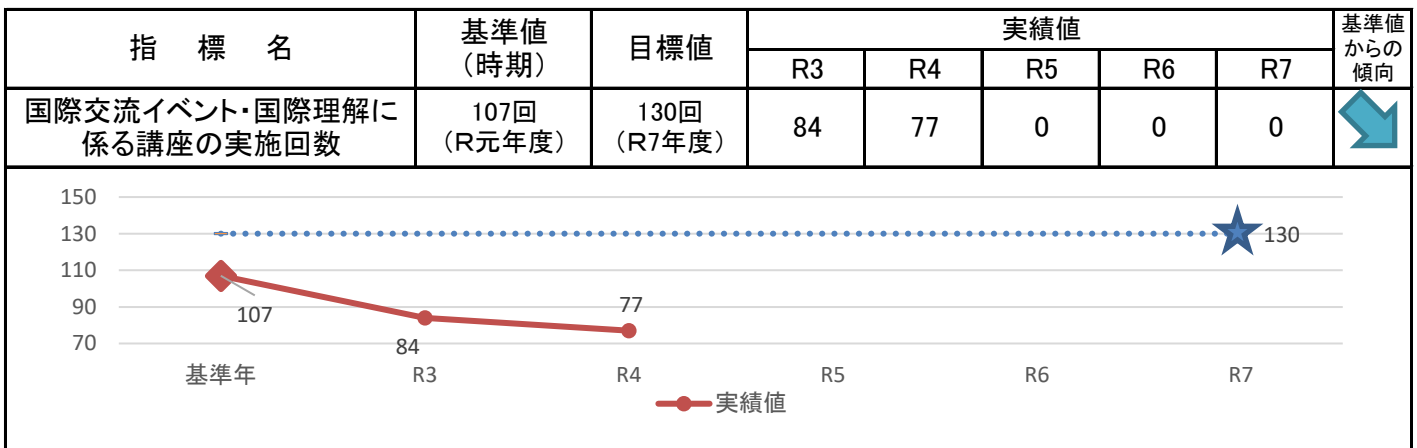
### ③ 国際的に活躍できる人材の育成

継続 ●国際的な理解と多文化共生の認識を高めるため、子どもゆめ体験事業を実施する。令和5年度がシーボルト来日200周年でもあることから、姉妹都市オランダ・ライデン市と市民友好都市ドイツ・ヴュルツブルク市への派遣を行うこととしており、派遣前後の研修の充実を図るなど事業効果を高める取組みを加えながら国際的に活躍できる人材を育てる。

#### 【G1-1に再掲】

継続 ●児童生徒の英語力向上については、市内の小中学校に配置したALTの効果的な活用を探るとともに、例年実施している小中9年間の英語教育研修会や学力向上研修会を充実させる。また、教科部会と連携しながら教員の指導力向上に努める。

## 成果指標



施策を推進する主な事業

1	事業名 担当課	国際交流員招致費	国際課
	事業目的	国際交流員を任用し、通訳・翻訳や国際交流に関する業務を行い、本市の国際化を推進する。	
	事業概要	英語、韓国語、中国語の国際交流員を任用し、通訳・翻訳、国際交流にかかる業務を通して国際化を推進するとともに、外国人住民の支援や市民の国際意識の向上を図る。	
	取組実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・翻訳、通訳</li> <li>・外国人住民のサポート</li> <li>・国際理解講座等の啓発活動</li> <li>・国際交流、観光等のイベント対応</li> </ul>	
	決算(見込)額	9,497,738	円

2	事業名 担当課	国際理解教育推進費	学校教育課
	事業目的	国際化が進むこれからの時代にふさわしく、自ら進んで交わろうとする国際感覚豊かな子どもの育成を図るために、ALTと外部指導者を全市立小中学校に派遣し、児童生徒が生徒の英語に直接接し、英語に対する興味を高めるとともに、国際感覚を養い、国際理解教育の推進を図る。	
	事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ALT(36人)及びALT指導専門員(1人)や外部指導者が、小学校のハローイングリッシュ活動や外国語活動、中学校英語科の授業で担任と協同での授業を行い、小中連携した9年間の国際理解教育を推進する。</li> <li>・国際感覚の醸成のために、グラバー園等の市の施設を利用し、外国人と児童生徒が触れ合う交流イベントを開催する。</li> <li>・中学生英語スピーチコンテストを実施し、ふるさと長崎について発信する機会を通して、英語で自分の考えを伝える態度や表現力を育成する。</li> </ul>	
	取組実績	小・中学校教諭やALTを対象とした研修会を実施し、指導力の向上を図ることができた。また、英語研究部会と協力し、学力向上研修会の際に、研究推進員が作成したリーフレットや指導案を提供し、授業改善を進める機会とした。さらに、文科省調査官を招へいた研修会を実施したり、視学官を招へいた授業研究会への参加を促したりすることで、より実践的な指導の在り方を学ぶ機会とした。	
	決算(見込)額	211,421,116	円



【国際理解講座(アメリカ)】



【子ども夢体験】

## 令和5年度 個別施策評価シート

個別施策	A3-2	外国人住民が暮らしやすい環境づくりを進めます	
2025年度に めざす姿	対 象	意 図	
	外国人住民が	暮らしやすい環境になっている。	
個別施策主管課名	国際課		

### 成果

#### ① 多言語による情報提供の充実

●外国人住民の生活利便性を高めるため、行政手続きや暮らしの情報、災害に備えるための情報などを4ヶ国語(英語・中国語・韓国語・日本語)で掲載した冊子「外国人住民のための生活ガイド」を外国人転入者に配布するほか、電子書籍として公開した。また、外国人にもわかりやすく表現された日本語「やさしい日本語」を活用した国際課ホームページ上の「生活に役立つ情報」欄は、閲覧回数が令和3年度は6,240回であったものが、令和4年度は10,223回に達した。これにより、英語・中国語・韓国語が母国語でない外国人住民が必要な情報に容易にアクセスし、各種イベント等の情報を含め適切な情報を得やすくなることで、安心して生活できる環境づくりにつながった。

#### ② 生活支援と市民との交流機会の充実

●外国人住民の生活支援と市民との交流機会の充実のため、国際ボランティアによる外国人住民向けの生活に必要な初級日本語講座を75回実施し、コロナ禍直前の令和元年度(延べ648人)の約1.8倍となる、延べ1,163人が受講したことにより、言語面からの生活支援と市民との交流の機会が創出され、多文化共生の取組みが進んだ。

### 問題点とその要因

#### ① 多言語による情報提供の充実

●多言語での情報提供の充実を図っているものの、外国人の国籍の多様化が進み、必要とされるすべての言語への対応は困難な状況である。

#### ② 生活支援と市民との交流機会の充実

●新型コロナウイルス感染症の影響が和らぎ、外国人住民数が増加に転じたことから、初級日本語講座の受講者数も大きく増加し、生活支援と市民との交流の機会の充実につながっているものの、初級日本語講座の国際ボランティアが不足する恐れがある。また、外国人住民と接する機会がある市民にとっても、「やさしい日本語」は有効なコミュニケーションの手段となるが、「やさしい日本語」の周知が十分でないことなどにより、市民への普及が進んでいない。

### 今後の取組方針

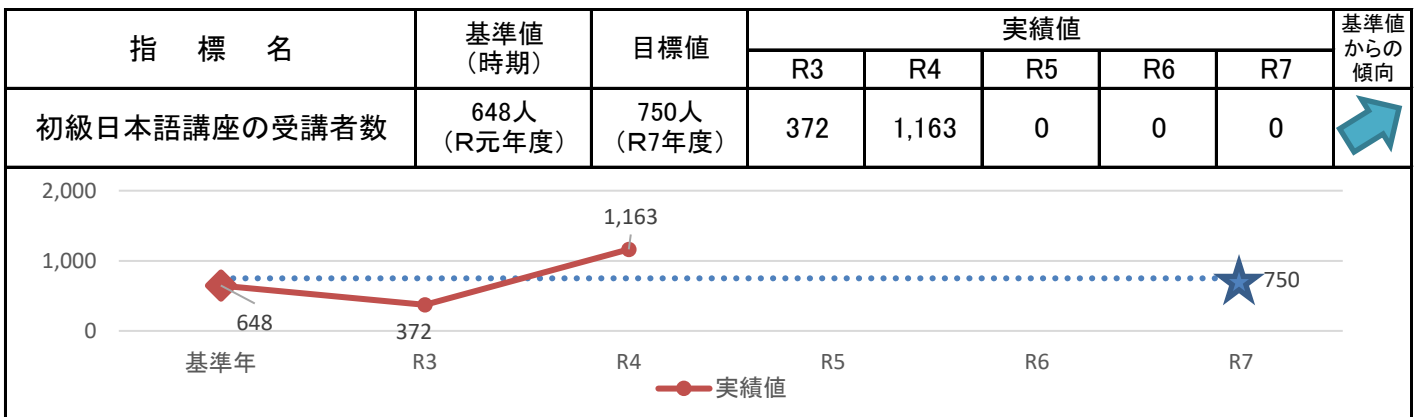
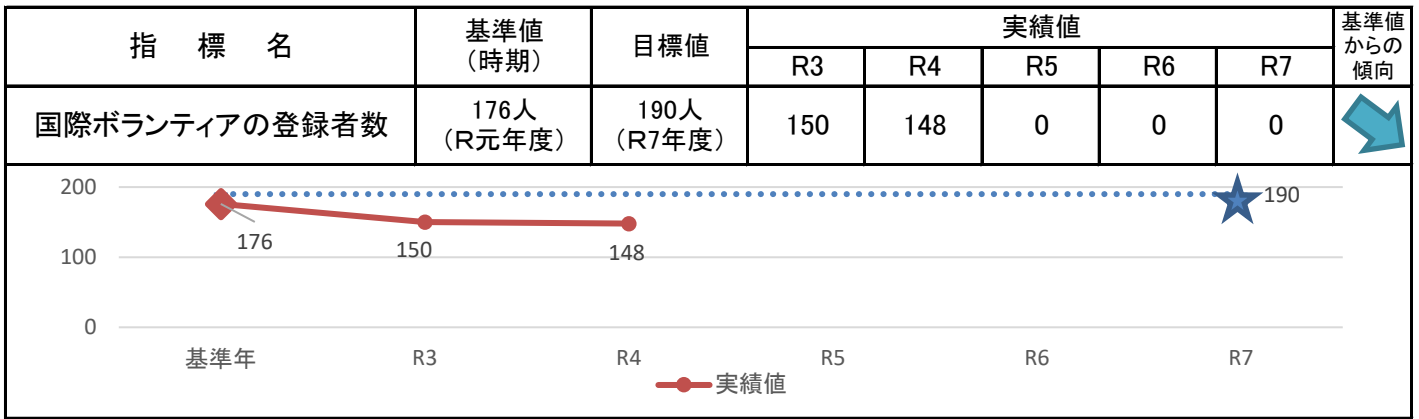
#### ① 多言語による情報提供の充実

継続 ●外国人住民の生活利便性を高めるため、「やさしい日本語」の活用を進めるとともに、引き続き多言語での相談に対応した「長崎県外国人相談窓口」の周知を行う。

#### ② 生活支援と市民との交流機会の充実

継続 ●初級日本語講座の国際ボランティアの登録者数増加を図るため、新たに大学への周知を強化するなど、より幅広く募集を行うとともに、年度途中でボランティアとの意見交換を実施し、その意見を講座の運営に反映させるなど、モチベーションを上げる取組を行う。また、「やさしい日本語」については、職員及び市民を対象とした研修を実施する。併せて、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった日本文化体験イベントを再開するなど、市民と外国人住民が異なる文化や習慣をお互いに理解し合うための機会の提供や支援を行う。

## 成果指標



## 施策を推進する主な事業

1	事業名 担当課	多文化共生推進費	国際課	
	事業目的	外国人住民の生活利便性を向上させるため、行政情報の提供や日本語講座などを実施する。		
	事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政等の情報提供</li> <li>・外国人住民のための日本語講座、法務相談、通訳の実施</li> </ul>		
	取組実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人住民の生活ガイドや国際課ホームページへの「やさしい日本語」の活用や多言語による情報発信</li> <li>・通訳ボランティアによる業務支援</li> <li>・日本語ボランティアによる初級日本語講座の実施</li> </ul>		
	決算(見込)額		1,557,949 円	



【初級日本語講座】



【多言語チラシによる情報発信】

## 令和5年度 個別施策評価シート

個別施策	A3-3	留学先としての質の向上を図り、魅力を高めます
2025年度に めざす姿	対 象	意 図
	外国人留学生が	長崎留学の魅力を見出すとともに、充実した留学生活を送っている。
個別施策主管課名	国際課	

### 成果

#### ① 産学官が一体となった各種支援策への一元的な取組み

●長崎への留学を呼び込むため、長崎留学生支援センター(大学・関係自治体・経済団体等で組織)において、国内外の日本語学校への長崎留学ガイドの送付やデータ版による募集支援、ホームページを通じたアルバイト紹介による生活支援、オンラインによるビジネス日本語セミナーや留学生活用セミナーなどの就職支援、同窓会ネットワークを活用した交流支援など、新型コロナウイルス感染症にも対応した各種支援を行ったことにより、外国人留学生数(在留資格が「留学」の市内在住者)は3年ぶりに増加に転じ1,157人となった。また、留学生生活の充実にもつながった。

#### ② 外国人留学生との協働

●外国人留学生との協働のため、長崎留学生支援センターを中心に、中国やベトナムの海外長崎留学生同窓会を通じて、現地の人々に長崎の大学の状況や生活に必要な情報をはじめ、長崎留学の魅力を発信したことにより、長崎留学の価値を高めることにつながった。

### 問題点とその要因

#### ① 産学官が一体となった各種支援策への一元的な取組み

●長崎留学生支援センターにおいて、各種支援に取り組んだことなどで、外国人留学生は増加に転じているものの、外国人留学生の国籍が多様化していることにより、充実した留学生生活のための就職支援や情報発信など留学生の状況に応じて必要とされる取組みが多様化している。

#### ② 外国人留学生との協働

●外国人留学生の増加や国籍の多様化に伴い、協働の機会の充実や広がりが期待できるものの、外国人留学生とコミュニケーションをとる機会が十分に創出できていないことから、協働の事例が少ない状況にある。

### 今後の取組方針

#### ① 産学官が一体となった各種支援策への一元的な取組み

継続

●長崎留学生支援センターを中心として、産学官の加盟団体、関係団体、企業と情報共有し、一体的に、外国人留学生の募集、就職、情報発信等の留学生の状況に応じた各種支援の取組みを進める。

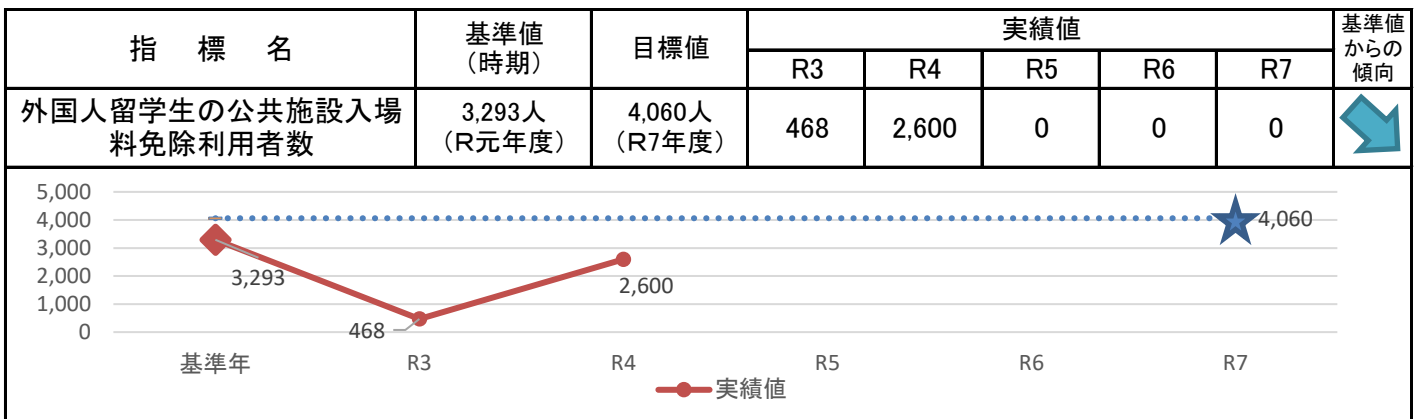
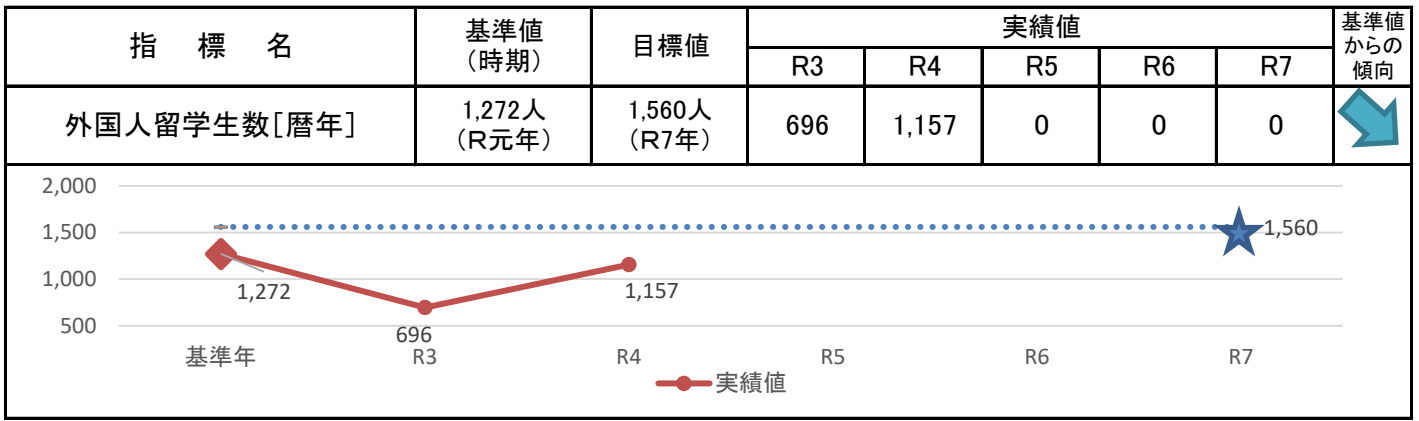
#### ② 外国人留学生との協働

継続

●留学生が自らの力を活かすことができるとともに、市民の異文化理解や多文化共生にも寄与するよう、国際交流イベントへの参画を働きかけるなど、様々な機会をとらえ留学生との協働に取り組む。また、外国人留学生に対する市有施設入館料等の免除や海外長崎留学生同窓会を通じた長崎の大学の状況の情報発信等により、引き続き長崎留学の魅力を紹介していく。



## 成果指標



## 施策を推進する主な事業

1	事業名 担当課	留学生支援・連携費	国際課
	事業目的	産学官が一体となった「長崎留学生支援センター」を中心に、留学生の各種支援や留学生に長崎の歴史・文化を体験してもらうなど、留学生の満足度を高め、留学生数を増加させる。	
	事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・募集、生活、就職などの各種支援</li> <li>・留学生に長崎について知ってもらうための取り組み</li> <li>・海外への長崎留学の情報発信</li> </ul>	
	取組実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長崎留学生支援センターを中心とした産学官が一体となった支援</li> <li>・市有施設の入館料等免除</li> </ul>	
	決算(見込)額		1,147,000 円



【長崎留学生支援センター  
(留学生と企業の交流会)】



【長崎平和大学における留学生への被爆  
体験講話】